



昭和49年12月1日 / 編集・発行 / 岡崎市教育委員会



わが道をゆく

教育一路、真実一路、野人として貫いた  
自分を省みて愛語とする。

渡辺愛吉

(石田茂作先生の廢瓦塔から矢作東小を望む)

## 現代の都会の子どもと教育

沖田 千尋

先ごろ、わたくしの勤務地区で、中学生の「生活意識」を調査した。その調査項目の一つとして、次のようなものを取り上げた。

「自分としては、これはよいことだ、実行しなければならぬことだと考えながらも、実行できないことにどんなものがありますか。(簡条書にしながら)。」

この項目に対する回答のうち、頻度数の大きいものを巡って、いろいろと考えさせられた。

その第一。「進んで、紙くずを拾ったり、教育や校庭をきれいにすること。」そして、それができない理由——①めんどくさい。②つい自分のことに夢中になり、気が回らない。③他人に、いい子ぶつてると言われるのがいやだ。④何となく恥ずかしい。⑤きたくないし、手がよこれる。⑥みんながしない。

まず、「めんどくさい」——この心情は、事、清掃・美化に限ったことではなく、生活のさまざまな場にかがわれる。たとえば、文字を正確に書く、体験や考えをまとめる、ひとの話を最後まで聞く、読書をする、記録をきちんと取る、順序立てて物を考える、回り道でも決められ

た道路を歩く、お礼は電話でなく手紙でおこなう等々に対して、めんどくさいと言う。

生活の機械文明化が、人工世界での生活がこも人間の気持ちを変えてしまうものか。まさに、「環境が人を作る」。「存在が意識を決定する」というものがある。

ついで、「他人に何か言われる」「みんながしない」——このごろの子どもたちは、よく言われるように、自己主張が強く、また、自主性もある。それにしても、この回答は意外である。その予想外の「他人指向性」の強さに驚かされた。強がりや言っているけれども、案外、小心なのだなと苦笑させられる。

その第二。「悪いことをしている人、ルールを守らない人に注意したり、忠告したりすること。」そして、それができない理由——①恥ずかしい。②その人にきられる。③相手が上級生だとこわい。④自分もするかも知れない。⑤直接、自分に関係がない。

こうした心理状態は、都会のおとなにも共通するものである。かわりを持つて、言いがかりをつけられたくない。へたをするると生命の危険にさらされる。事

実、バスを待つ人の列への割り込みや、車内での喫煙をたしなめて刺された例もある。

現代の都会にはどうも短絡人間が多いようだ。かつての時代なら、「いや、どうも」と頭をかきながら引きさがったものが、近ごろは開き直る。何がそのような人間を生み出す母胎になっているのか——それは、考えてみれば大きな社会問題であり、ひいては教育の問題でもある。確かに、現代の都会は、その一面において病んでいる。その病んでいる都会に生きる子どもたちの教育には、純朴な人々の集まりである村では考えられないようなむずかしさがある。

現代は、自然法的な考え方が影をひそめ、実定法的な考え方の優先する時代である。古めかしい言いぐさかもしれないが、「世間の目」というものが、あるにはあっても、無視され、無力化している。換言すれば、相互規制と相互連帯というものが十分に機能しない。石油危機は日本の経済を混乱におとしいれているが、現代の社会における人間関係のさまざまなゆがみも、石油危機にまさるとも劣らないくらい大きな問題である。教育はこの揺れ動く、人間の意識と行動の問題に真正面から取り組む姿勢を確立しなければならぬ。そして、わたくしたちは、世の中の流れを変えていく底力を生徒たちの中に培っていく気概を持ちたいものである。

(東京都世田谷区千歳中学校)

いまむかし

はり

○お針



運針には、小ちゃばという名の短い針を使ったが、小学生は、小ちゃばより短い学生針で縫った。人さし指と親指を交互に動かしながら縫う運針の技を、初めて裁縫を習う小学校四年生に徹底させたもの。授業の始めには、運針を一斉に行い、「ヤメ」の合図で何本縫えたかを記録することは、四年生だけでなく、五・六年生、高等科生にも常のことであった。針山は、髪の毛をまるめて入れたものが柔らかで刺しよく、さびないので最高だった。モスの布を表にしてふんわりできた針山に、初めて作り物をした学童は、ほほを寄せて喜んだ。

針の本数とその始末はきびしいものだった。縫い針二本、くけ針二本、待ち針十本、その頭に記名し、一本足りないと思えば皿のようにして探しあてた。

お針の先生から裁縫の先生と呼び名は変わったが、教材は縫うことに一貫していた。後かけの紐ぐけを示範しながら、待ち針のさし出し方を教え、仕上がれば



今年「岡崎開市四百五十年」にあたり多くの記念行事が催された。その中で「岡崎開市四百五十年讃歌」が小中学生はじめ多くの市民に歌われたがこの歌の原曲は、大正十三年五月二十六日から三日間岡崎開市四百年祭が盛大に行われ、その時に祝賀行進として渡辺世祐氏の詩に紫田顕正氏が作曲し歌われた曲である。今回の讃歌はこの旋律に新たに清水孝之氏の詩をつけたものである。

なお原曲の作曲者紫田顕正氏は明治六年伊賀町に生まれ大正八年岡崎市立図書館の初代館長となり岡崎市史八巻別冊四巻の編さんされた。

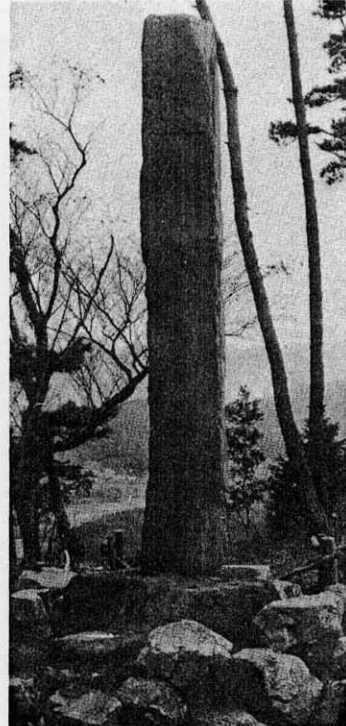
また、「徳川家康とその周囲」の編さん収集等郷土史家の第一人者として活躍、後に市功労者となられる。市史の最終編「人物篇」を脱稿しながら戦災により製本前に灰燼と化したのがおしまれる。

作詩者渡辺世祐氏は明治七年山口市に生まれ、東大で、日本中世史を専攻後に文学博士となり「関東中心足利時代史」「豊太閤の私生活」「室町時代」などの著書がある。特に室町、戦国、安土桃山の各武将の伝記等の考証的研究で有名。

岡崎開市400年祝賀行進曲

渡辺世祐 作詞  
紫田顕正 作曲

ぶ - う - ほ げ し き ゃ み の よ に  
の ん せ い あ が る い お う ぐ ん  
ま ば か の し ろ - お ち り て  
だ い お の ぎ せ し - け ん せ つ の  
も と い も た ら - と し わ こ れ  
だ い え い よ ね ん の ぼ っ ぐ



山中城址の碑陰志賀重昂誌

岡崎開市四百年祝賀行進曲

祝賀行進曲

風雨烈しき闇の夜に  
かん声揚る医王山  
山中の城陥りて  
大岡崎市建設の  
基を樹てる時はこれ  
大永四年夏五月

我三河武士そのかみの  
壮烈の意気偲びつつ  
青葉若葉の栄え立つ  
清新の気力蓄えて  
進まん前途と祝えいざ  
岡崎開市四百年

紅の結び方を練習したもの。

○針供養

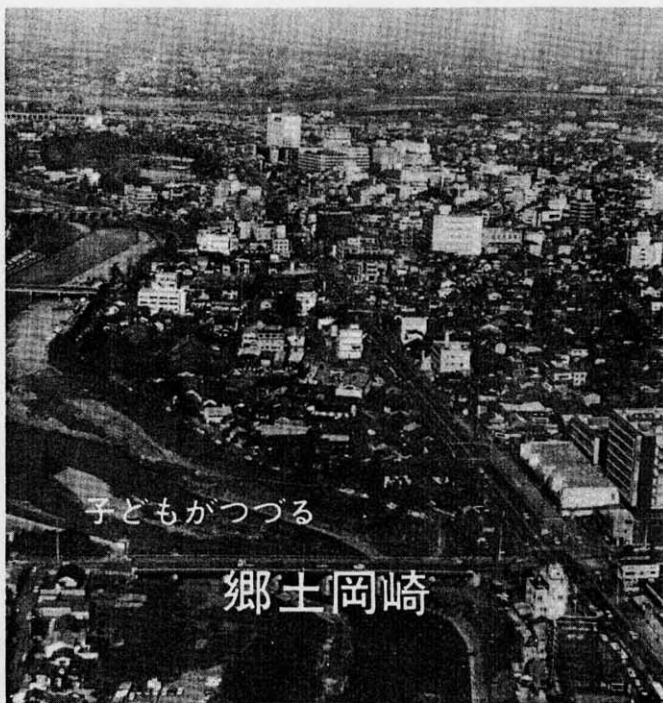
旧暦十二月八日が供養日という地方もあるが、いずれにしても「固い物ばかりでご苦労さまでした。柔らかい所でお休みください」という気持ちから、祭だんに置かれた豆腐、こんにやくに折れた針を刺して、毎年岡崎女子高校では供養文が読まれる。「二月八日の今日、私たちは、昔ながらのゆかしい習慣に従って針供養を行うためにここに集まりました。……私たちは、日頃針というものを忘れてしまつて……と、昔、「この日一日は針を用いず……と自分の針を休ませた気持ちに比べ、最近では供養祭に折れ針を集めるのに一苦心とか。

○張り

昭和初期、尺貫法から寸法に変わった時は、換算表と物指を家へ持ち帰つて夢中で勉強をした。着物にタスキがけてアサウラをはいて職員運動にもはげんだ。梅園小学校の裁縫室には、「心こめて縫うた着物を我が子に着せて、丈はよいか、衿はよいかと座つてみたり、うしろにまわつてみてみたり……」という意味の詩が掲げてあつたとか。女教師が針への道を細やかに伝えようと努力したのであろう。

現在、合理生活によって針の必要性が薄れかけたが、先人の遺産を伝えるための張りを求めるのが急務である。

(釜ヶ谷せん・佐藤光江・岩瀬米子・)  
(その他の先生のお話から)



郷土岡崎の自然やそこに生活する人間の姿を、子どもの目と心で捉えた「岡崎子ども風土記」の編集が、国語部の手ですすめられています。掲載される多くの作品の中から、紹介を兼ねてその一部を抄録してみました。

## やさしい作り

うちでは、みんなでやさしいを作っています。

春と秋がいちばんいそがしく、ハウスにビニールをかぶせたり、なすのなえをつぎたしたりしてうえます。ハウスの中は、とてもあたたかいので、冬のうちは、とてなすがきれるのです。

わたしが学校から帰ると、たいていみんな、ハウスでなすやきゅうりのせわをしています。

きってきたなすやきゅうりは、家へ持

## シヨツピングタウン

私たちがまだ小さかったころの商店街は、道路ぞいに一軒一軒それぞれ異なった商品を売っていて、家号やのれんなどで見分けをしていました。

ところが、最近市の中心地に次々と建てられたシヨツピングセンターは、高層の建物で占められ、従来の横店から縦店へと大きく移り変わっています。

新鮮で豊富な商品を、ゆつたりした気分を味わいながら、自由に品選びができることは実に楽しいことです。また、店内の設備がゆきとどいていて、見やすく買いやすい配置になっていることも見のがせません。

つぎてきて、大きいのもや小さいのをくべつしてそろえます。おとうさんとおかあさんが、おにいさんの作ったはこにつめまます。あまりたくさんあると、わたしもよつてあげます。

つぎの朝、おとうさんが、いちばに持っていきます。とよだ、ちりゅう、かりや、なごやへも持っていくときがあります。

うちでは、やさしい作りの話をしょつちゅうしています。いそがしいときは、おかあさんは、ごはんのしたくを、おばあさんにしてもらいます。

(六ツ美中小二年、村たえ子)



常春の国ビニールハウス

## グリーンランド

岡崎市の東端の町、本宿にもう一つの本宿が生まれた。

名鉄本宿駅の近くの山を、三十三万平方メートルもの広大な地域にわたって切り開き、グリーンランドという、ばかでない住宅団地を造ったのだ。

大小・長短の道路が網の目のように張りめぐられ、中央は珍しい掘り割り式の十二メートル道路が走っている。両側に

は街路樹が植えられて、大都会の一角がそのままここに移ってきたような感じである。

現在は、ここに約百八十戸ほどの住宅が建っているが、最終的には千二百戸ほどの住宅群が建設されるはずである。

グリーンランドがここにできた理由は、立地条件がすぐれていたためである。第一に土地が安く、第二に一、五キロ以内に保育園や小・中学校があり、本宿駅に近いということだ。第三には、自然がたっぷりあり、空気がきれいだということである。(東海中一年 手島良)

## 石屋の昔と今

カラ紡などが不景気になると、石屋さんの仕事が急にそがしくなるそうです。石工団地の事務所のおじさんは、「世の中が不景気になると、みんなが石ひやとろううなどを買ってお参りするからだよ。」と教えてくれました。ぼくは、「苦しい時の神だのみ」ということは聞いたことがあるけれどもほんとうだな、とちよつとへんな気持ちになりました。

## とんや団地

とんや団地は、男川の大西町にあります。はば七メートルぐらいの道路がたてよこに通っていて、その両側に鉄きんのとんやさんがならんでいます。

この団地の中には、二十七けんぐらいのとんやさんがあります。かんせいしたのは、昭和四十八年の三月だそうです。

ここでは、おかし・オートバイ・車・プラモデル・おもちゃ・うえ木・電気きぐ・テレビ・ラジオなどを売っています。とんやさんでおかしを買う時は、一はことか、一ふくろとまとめて買わなければ、売ってくれません。ほくたちが買っていくと、「子どもが来る所じゃない。お店で買いなさい。」といひます。



(男川小 三年 加藤 智彦)

若衆達のかけ声もいさましく

十年ほど前までは、石屋は花崗町あたりにかたまっていたましたが、石を切ったりけずったりする音がやかましく、まわりの人にめいわくがかかることと、場所がせまいことが悩みの種でした。そこで、石工組合の人たちが相談した結果、上佐々木町に「岡崎石製品工業団地組合」という石工団地ができたそうです。

おじさんは、

「今の人はいいよ。時間から時間まで仕事をすればいいけど、昔の人は朝早くから夜は物が見えなくなるまで仕事をしたものだよ。」と教えてくれました。

(梅園小 四年 竹下 佳行)

岡崎子ども風土記(二月上旬発刊・A B 5版一八〇ページ・写真・絵地図・資料入り)

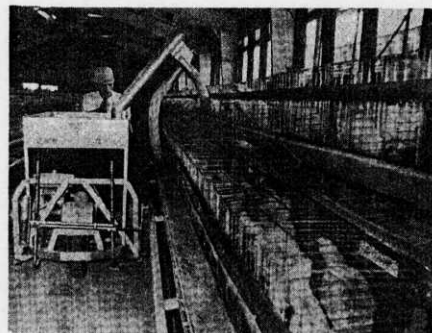


パワーショベルがきょうもうなる

## 大門のしめ縄

づくり

しめ縄づくりは、家族全員の仕事だ。大根じめのような力のいるものは、父でなくてはできない。父がなつた縄に、足をつけたり御幣をつけたりするの、母の仕事。おばあさんは、御幣作りが専門。子供は子供なりに、なつたものに黒紙をはつたり縄の毛をむしつてきれいにする。十二月にはいと徹夜する日もある。ストーブの周囲に散らばつて仕事をするのだが、寒さはいつしか忘れてしまう。ひと区切りついたあとのお茶のおいしさは、また格別だ。



人間顔負けの文化住宅

滋賀県へも出荷する。

(岩津中 二年 平石 順二)

製品は、車で名古屋、豊田、知立、安城などのデパートや小売店に送り出す。

## いもまつり

きょうは、いもまつりだなあ、と思いました。

いもまつりは、毎年九月十八日に、秋のほう作をいわつて、神さまにおれいをするおまつりです。

くしには、さといも、はんべい、こんにやくが五こさしてありました。

(矢作東小 二年 杉山 朱美)

## 一 講演要旨

## 「地の花・心の花」

宝仙学園短大教授

## 紀野 一義

きょうの私の話の題は、「地の花・心の花」というのでありますが、私がつけたのではありません。こちらがつけてくださったのですけれども、すばらしい題ですね。この地の花というのがびつたりのお方が、私の禅の先生の柴山全慶というお方でもあります。人相といい、態度といい、気品といい、すばらしいお方です。そして、教えてくださることは、心の花です。

今から二十年前、私も比叡山へ行きました時、この時が最初の出会いです。仏教の方では、邂逅といいますが、私たちがキョロキョロして、ふと見ると、禅宗のお坊さんが三人、こつちへ歩いてくる。先頭を歩いている坊さんは、胸をピンと張っていて、背骨が腰骨の上にピンと立っている。サッサッと歩く。右も左も全く見やしない。まっすぐ見ている。これはきょうお話くださる老師様だと思って、「柴山老師

様でいらっしやいますか。」と声をかけると、この方はそばまでいっても見向きもしない。立ち止まると、こちらをジロツとすこい目つきで見つめて、「そういふあなたはだれか。」と言う。最初からやられてしまった。その夜は、「禅と長唄越後獅子」という話をしてくださいました。

「長唄越後獅子の最初の文句は、打つや太鼓の音も澄み渡り、とある。打つや太鼓というのは、角兵衛獅子の太鼓であります。これがデーンとなつたら、それが天地いっばいのデーンと聞こえたら、それでいいのであります。……」

驚きました。もう夢中になって聞いておりました。目があくということがあります。この時、三十三歳の時、仏法という大海に目をあけさせていた。目があいた時、あたりの景色がちがうのです。その夜は満月。琵琶湖がキラキラ光つてい

ます。場所は、千年の仏法の歴史がある比叡山。目の前には、臨済の伝統を継いだ満月のような老師様が話していらっしやる。ほんとに、私の生涯であんな話を聞いたのは初めてであります。柴山老師は、今はお亡くなりになりましたが、私はちつともさみしくない。老師様は私の内に生きているという気がします。こういう柴山老師とか、いろんな人が、天と地とを結び働きをしてくださる。天というのは、人間を動かす大きな力。日本人はそれを天と呼んだ。天に生かされている。そのことを教えてくれる人というのが、柴山老師であり、ある時は赤ちゃん、ある時は女の人。また、ある時は、雨や、風や、雪、そういうものが、我々に教えてくれる。

山頭火という人は、日本国中を放浪して歩き、我々に、天のこたばを伝えてくれた人であり、山頭火は、雪が好きで、いろいろな雪の句を残していますが、そのなかで私が一番好きなのが、

遠く遠く鳥渡る山々の雪  
同じころ作りましたが、  
雪ふる逢えば別れの雪ふる  
これもいい句ですね。  
私が岡山県の津山という所に行つておりました時、最初さみしくて、山の中のお城に登つて、石垣に寝ころがって雲を見たり、遠くの山々を見たりしてました。ある冬の朝、城からふと那岐山を見ると、山の上が真白になっている。ヒャー雪がき

## かがみ

## 読書週間

高木 明子

読書指導の研究に取り組んで半年、試行錯誤をくりかえす中で迎えた読書週間。今年こそ、実りのある週間にしようと、わたしも、子どもたちも意気こんでいた。読書計画をたて、発表し合った。子どもたちは大喜びで、口々に言った。

「先生に負けないぞ」  
読書週間後、感想を書かせてみると、「一度むずかしい本をやめようとしたが先生に励まされて読み終わった。その時読めたという満足感がこみあげてきた。もう一度大きくなったら読みかえしたい。」  
「先生に読んでもらった『ろくと山の百姓たち』がよかったので、岸武雄の本を次々と読んだ。」

これからも本をとおして、広く、深く考える子に育ってほしいと思うとともに、わたしも負けずにがんばらなくてはと痛感するこのごろである。

(六ツ美中部小)

(文責 連尺小 石原比朗志)

(後略)



着実、多彩な研究活動みのもる

市教育文化賞・県教育論文入賞者

市内教職員の着実な実践や研究の成果を示す著書の出版、教具資料の制作、研究論文の発表等が目立っているが、このほどもの中から市教育文化賞、県教育論文の入賞者が選ばれた。

【市教育文化賞】同賞第2回の本年度は応募件数五十余点。そのうち選ばれた三名と二団体の授賞式は十一月三十日岡信中央支店ホールで開催。本年は、特に受賞者の業績の披露等もあり榊島忠夫先生（京都府立大）の講演「情報化時代の明暗」と併せて、参会者に大きな感銘を与えた。受賞者は次の通り。

個人▽糟谷正孝氏（六名小学校長）▽随筆集「初明り」の刊行など▽斉藤嘉彦氏（岡崎高教諭）▽真宮遺跡の発掘など▽川辺久男氏（男川小教頭）▽郷土学習資料としての八ミリ映画の製作など▽団体▽滝山寺鬼祭

【刊行あんない】  
◇梅園学校百年史 梅園小 日本教育の歩みの中に「梅園の百年」を位置づけ、時代毎の「学校の特色」を浮き彫りにした重厚な記念誌。あわせて記念文集「うめぞの」も刊行。  
◇童話集「ほたるとおじいさん」

宇野正一著  
本年度南吉文学賞受賞に輝く著者の本格的創作童話集。収録された自選十編の物語は、いずれも素材、舞台を郷土にとつたもので、岡崎の人と自然の美しさに溢れており感動を誘う。  
A5判二六〇P（明治書院刊）

岩津中教諭▽佳作「いかにして学習の定着化を育てるか」▽川辺久男氏（男川小教頭）▽佳作「書き合い活動を通じた学級集団づくりの記録」▽梶尾長夫氏（岩津中教諭）

【県教育研究論文】県教委、県振興会の主催によるもので数えて八回め。応募五十八点中入賞十九点。そのうち本市の先生方は個人最優秀賞はじめ四名が選ばれ大いに気を吐いた。関係受賞者は次のとおり。

個人研究▽最優秀賞「実践意欲を高める道徳指導」▽渡辺勝英氏（羽根小教諭）▽優秀賞「ゴミ日記」▽ゴミを通してみた学校教育の記録」▽柳原豊氏（

本年度、文部省・県教委から海外教育事情視察に派遣された本市関係者は次のとおり。  
▽文部省派遣▽葵中畔柳正弘教諭（5月長期、カナダ、ヨーロッパ）▽六名小吉見和子教諭（6月短、ヨーロッパ）▽梅園小長坂一昭教諭、矢西小北川英雄教諭（9月短、ヨーロッパ）▽岩津中神谷卓爾校長（10月長 USA、ヨーロッパ）▽福岡小塚本時丸校長（11月短、オーストラリア）▽連尺小高木節子栄養士（11月長、南米）▽県教委派遣▽六名小磯谷栄一教諭（10月、USA）▽河合中古田忠久教諭（10月、ソ連北欧）

49年度市内小中学校児童・生徒の発育状況（身長と体重）

小学校

平均	男女別		男子						女子					
	年令別	6	7	8	9	10	11	6	7	8	9	10	11	
身長 (cm)	49年度岡崎市平均	113.7	120.0	1125.4	130.1	135.1	140.6	113.4	119.2	125.0	130.5	135.2	143.0	
	前年度岡崎市平均	114.2	120.3	1125.3	130.6	135.0	140.6	113.5	119.6	124.9	130.3	136.2	142.5	
	39年度岡崎市平均	112.9	118.2	1123.3	128.5	132.8	137.8	111.8	117.3	122.5	127.5	133.6	139.5	
	48年度全国平均	114.8	120.8	125.9	131.1	136.0	141.5	114.0	120.0	125.4	130.9	137.1	143.7	
	48年度愛知県平均	114.5	120.8	125.8	131.0	135.8	141.1	113.7	120.1	125.1	130.7	136.8	143.4	
体重 (kg)	49年度岡崎市平均	20.2	21.6	25.4	26.1	30.6	32.1	19.8	21.9	25.8	26.3	30.9	35.1	
	前年度岡崎市平均	20.1	22.8	25.0	27.7	30.5	34.1	19.8	22.0	24.5	27.3	31.1	35.5	
	39年度岡崎市平均	19.3	21.2	23.5	26.4	28.5	31.4	18.7	20.7	23.0	25.5	28.7	32.7	
	48年度全国平均	20.3	23.0	25.5	28.3	31.4	35.0	19.9	22.5	25.0	28.1	31.9	36.6	
	48年度愛知県平均	20.2	22.8	25.2	28.2	31.5	34.7	19.7	22.2	24.7	27.9	31.5	36.2	

中学校

平均	男女別		男子						女子					
	年令別	12	13	14	12	13	14	12	13	14	12	13	14	
身長 (cm)	49年度岡崎市平均	147.2	154.5	160.7	148.3	152.4	154.1	38.5	44.2	49.4	40.3	45.1	48.2	
	前年度岡崎市平均	147.3	154.7	160.7	148.4	152.2	153.7	38.8	44.3	49.5	40.7	45.1	48.4	
	39年度岡崎市平均	143.9	151.3	157.5	145.0	149.4	151.8	36.0	40.9	46.5	37.5	42.1	45.2	
	48年度全国平均	148.1	155.4	161.5	149.2	152.7	154.5	39.8	45.2	50.5	41.6	45.8	48.7	
	48年度愛知県平均	147.7	155.1	161.3	148.8	152.2	154.3	39.6	45.3	50.3	41.0	45.7	48.6	

## 12月の行事

日	曜	行	事
1	日	中学校文化祭 (甲山、南、竜海、城北、常磐)	市総合剣道大会 (岡商高)
2	月		
3	火	岡崎市学校保健大会 (三島小)	
4	水	県生徒指導担当者連絡協議会 (美川中)	
5	木	指導主事学校訪問 (福岡中)	西三河養護教諭研修会 (青年の家)
6	金	羽根小学校増築工事完工式	
7	土	交通法令講習会 (葵中)	教頭合宿研修会 (8日まで蒲郡荘)
8	日	本宿小文化展	
9	月	定例校長会 (市役所)	
10	火	月報編集委員会 (市役所)	
11	水	六ツ美北部小音楽会	
12	木		
13	金	教務・校務主任会 (甲山中)	第1回岡崎市PTA文化展 (15日まで美術館)
14	土		
15	日		
16	月		
17	火	定例教育委員会	
18	水		
19	木	臨時校長会 (市図書館)	市青少年指導者講習会 (森の体育場、子どもの国)
20	金	市文化財保護審議会	
21	土		
22	日		
23	月		
24	火	2学期終業式	
25	水	冬休み (1月7日まで)	冬期研修会 (27日まで県野外教育センター)
26	木		
27	金		
28	土	官庁ご用納め	
29	日		
30	月		
31	火		



この本を

○地球時代の日本人	梅棹忠夫	中央公論社	49. 9	¥980
○古代の探求	松本清張	文芸春秋	49. 9	¥1300
○遊びと日本人	多田道太郎	筑摩書房	49. 9	¥980
○あづまみちのく	唐木順三	中央公論社	49. 9	¥2000
○雑種文化	加藤周一	講談社	49. 9	¥280
○昼下りの中学生	望月一宏	中央公論社	49. 10	¥650
○夕焼	小林 勇	文芸春秋	49. 10	¥1200
○創造性への対話	江崎玲於奈	中央公論社	49. 10	¥950
○情報・創造	樺島忠夫	三省堂	49. 10	¥500
○日本史の虚像と実像	和歌森太郎	毎日新聞社	47. 8	¥800

寸言

「生きたいように生きる」  
そう願った一年ではあったが……

教育文化講座、研究会等、著名人の訪  
れに新鮮な感銘。

今日播かれた種子が、いつの日にも、ど  
のような花を咲かすであろうか。

「米は地力で、麦は肥料で作れ」とい  
う。

はや師走。

流れゆく大根の葉の早さかな

虚子